

事務事業名	学校利用検討部会開催事業			担当	教育委員会 科学教育センター		
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり		電話番号	0285-83-6611		
施策名	2	小・中学校の教育の充実		<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	学習指導要領 真岡市科学教育センターの設置、管理及び使用条例				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成 5 年度～）		
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4. 社会教育費	4. 社会教育費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	・学校利用検討部会は、市内27の小・中学校(小学校18、中学校9)が年間を通して円滑にセンターを利用できるよう、翌年度の利用日程について毎年度末にセンターと学校側が調整、検討する会議である。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 23年度実績 ・市内小中学校の教務主任27名で運営し、科学教育センター利用学習日を決定した。県、郡、市内の行事及び各学校の行事を検討・調整しながら計画を立てた。  24年度計画 ・前年度と同様に計画している。	⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移								
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)		
	ア 会議開催回数	回	2	2	2	2	2		
	イ								
	ウ								
エ									
オ									
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 ・学校利用検討部会員	⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移								
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)		
	ア 小学校教務主任数	人	18	18	18	18	18		
	イ 中学校教務主任数	人	9	9	9	9	9		
	ウ								
エ									
オ									
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） ・小中学校の児童生徒及び教職員が円滑に科学教育センターを利用できるようにする。	⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移								
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)		
	ア 円滑な利用を図った小学校教務主任数	人	18	18	18	18	18		
	イ 円滑な利用を図った中学校教務主任数	人	9	9	9	9	9		
	ウ								
エ									
オ									
④ 結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） ・小中学校の児童生徒・教員が円滑にセンターを利用することで施設の効率的な利用と理科学習の指導計画の充実を図る。	⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移								
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)		
	ア 理科が好きな児童・生徒の割合	%	92	92	92	92	92		
	イ								
	ウ								
エ									
オ									
(2) 総事業費の推移									
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0	0
			一般財源	千円	2	3	3	3	0
	事業費計(A)			千円	2	3	3	3	0
	人件費	正規職員従事人数	人	5	5	5	5	0	
		延べ業務時間	時間	134	135	120	120	0	
		人件費計(B)	千円	560	548	512	509	0	
	トータルコスト(A)+(B)			千円	562	551	515	512	0

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	・各校のセンター利用に際し、各学校の行事等と重複せず、公平に利用できるよう、各学校・クラス及び学年の利用日程を調整するために開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	・平成21年度から新学習指導要領の移行措置が始まっている。改定に伴い、当センターのような科学館や博物館等を利用した学習が推奨されている。 ・平成21年3月に二宮町との合併により、学校・入所クラスが増加し、入所スケジュール調整する本部会の重要性が増した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・学校教育の一環として実施している科学教育センターの学習利用日程を調整する会議である。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・科学教育センターでの学習は真岡市学校教育の一環である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある ・児童生徒が科学教育センターで学習する日程を調整する会議である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある ・学校利用検討部会での検討内容は、本センターの学習利用の日程調整に生かされている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない ・本事業は、科学教育センターにおける小中学校の年間学習利用日程を調整するものであるため、廃止すると円滑な利用ができなくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？  ・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない ・類似事業はなく、統廃合や連携はできない。  <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・会議資料用の消耗品等最低限の費用であり、削減余地はない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある ・会議開催と資料作成のみであり、最小限の費用である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある ・科学教育センター利用学習は、本市の学校教育の一環であり、全ての市内小中学校が利用している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							